リレー連載
英語教育時評

小学校英語——音と文字をつなぐために

久埜百合
Kuno Yuri
（中部学院大学学事顧問）

2020年に外国語活動と外国語科が小学校教育課程に導入されたが，直前にコロナが蔓延し全校休校となり，異常な授業形態で始まった。その後，子どもが登校するようになると，プラスチックの衝立越しに，マスクで口を覆いながら授業が行われた。今，マスク着用は任意となったが，この3年間の指導で現場は様々な困難を経験した。

やり取りは，教室内を移動せず着席のまま行うことで，発話の指導はその都度できるようになったが，英語音に親しませるための歌や手遊び歌などリズムを体感させる活動ができなくなった。その代わりに，文字を書く指導に移行する例が増え，文や語を書くとき，その発音を確認する指導が後回しになった。

子どもは英語を聞き取ろうとして，常に話し手の口元を食い入るように見つめている。しかし，マスク越しでは口元が見えない。英語音の作り方の指導には口周辺の動かし方に気づかせる必要がある。平常でも単語の頭音や語尾音を聞き落とすことがあるのに，さらに不利である。発音を確認できないまま授業を進めると，複数の -s，冠詞の a，an，the，過去時制の動詞の語尾音の確認も不十分になる。発話する英文のモデルを，文字を見せて確認できるようにしたいが，*Let's Try!* も教科書も読むための英文が少なく，文字で確認せず発話を繰り返すことになる。聞き取りの活動では内容語のイラストと綴りが示されるが，文として表示されていない。不確かな音素の発音や脱音，脱語は英文を書くときの誤りにつながり，中1の春に露わになる。

I have a two pencil. のような文は，聞き取った I havea card. I havea cat. が口癖になり，have の音が hava になり，書くときに音を思い出すと I have a two cats. になることで生じる。この誤記を避けるために，I have a bat. I have two balls. と単数と複数を混在させて口頭で表現活動を行い，数による音の違いに気づかせたい。

小学校で身につけた英語が中学で誤りと判定される例は，I can soccer. のように他にもある。聞き取れた音を自分なりに判断して表現し，それを修正する機会もなく使い続けていることが誤りを固定することになる。

I want to go to . . . . から I want to play baseball. を学び，直後に I enjoyed playing baseball. の表現が加わると，want to do と混同し，I enjoyed to play piano. となる。また，-ing は弱く発音されるので，聞き洩らすと I enjoy play piano. と覚えてしまうこともある。

友だちと言い交わす文を教科書で見て確かめられると，自分が話す文との違いを見つけて修正できるが，英文に触れる機会が少なく，見落としてしまうことが多い。

もう1つ，日本語音と英語音との混同が起きることで，3年生から始まるローマ字指導の問題がある。外来語を日本語発音でローマ字表記するので，英語音と文字とが一致せず，英語を読んだり書いたりするときに混乱が起きている。子音や母音の発音指導を行い，ローマ字表記とは異なる英語表記への関心を育てたい。

英語を書く前に bus をローマ字で basu，table を teburu と書く指導を受けると，正しい綴りの予測ができないので読めないということが起きる。table をタブレットと推測する子どももいる。レストランを restauran まで正しく書いているのに t を書き落とす。日本語ではアイスクリームは1語，英語では2語となる。カタカナ表記も子どもが主体的に考えようとする力の邪魔になる例である。

単語を読むときも，同じ文字が unicycle の2つの c のように異なる音になることに注意させたい。耳の ear も，語頭に b, h, g, n, p, t, y が付くと，母音の発音が変わる。ou の綴りも you，enough，four，house，shoulder，などと身近な語で発音が異なる。

時々鏡文字を書いてしまう子どもが事もなげに spaghetti を読み，l と r の発音が怪しいのに gorilla も読める。そして，英語を読んだり書いたりできるようになりたい，と訴えている。I can soccer. I want swim. のような，子どもが考えた末の誤記の理由を考察し，書く直前の文字と音とをつなぐ指導方法を探り，中1の英語学習でつまずかないようにしたい。